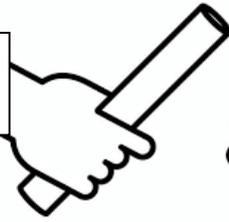


学びのバトンをつなぐ ～小中一貫ワーキンググループ～

小学校での学び



中学校での学び

1月21日(火)、山西小学校で英語の授業が行われ、中学校の先生も参観して研修を深めました。中学校の先生の感想からは、小中一貫教育の意義が見えてきます。

授業を見ての感想 <中学校英語科教師>

- ・小学校では、3年生から英語に触れて楽しむ授業が展開されている。
- ・日常にある英語(BINGO)、バナナ、パンダなど)を入口として重要な英語表現を学んでいる。文字を使わず、教員のつくった分かりやすいスライドを見ながら「話したくなるような状況」をつくっている様子が見事であった。
- ・6年生の授業では、過去形を学ぶ単元に対して、「自分の思い出に残っている学校行事について話す」という状況をつくり、教員の真似をしながら自分のことを話しているうちに、**自然と英語が口に馴染んでいる**というものであった。過去形の文を聞く、補助付きで話す、そして一人で話す、と**45分の中で変容する**様子を目の当たりにした。



小中一貫教育の重要性

- ・小学校で学んだことを中学校の教員が分かっていないと、「断絶」が生じてしまい、**生徒は戸惑いを覚える**とともに、「**小学校でやってきたことは何だったのか。**」という不信に陥るとされる。

小中教員の合同研究(ワーキンググループ)で感じるのは二つのメリットである。一つめは、中学校教員は小学校教員の話聞き、**ソフトランディングできるように授業をデザインする**ことができる点である。二つめは、小学校教員は中学校教員の話聞き、「**中学校の課程で何が求められているか**」を知り、**授業をデザインする**ことができる点である。

二者が手を伸ばすことにより、「中一ギャップ」の解消が現実的となるのである。

小学校教員が中学校へ行ってみると、小学校で教えておくべきことが見えてきます。反対に、中学校教員が小学校へ行ってみると、中学校で何をどう育てるべきかが見えてきます。小中一貫教育の原点は、教師の使命感だと感じています。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

